

## 事業報告書

### シンポジウム

#### 第6回 外国語教育の未来を拓く ～豊かな人間性を育む多言語・複言語教育～

開催日時：2018年3月11日（日）10:00～17:00

開催場所：上智大学四谷キャンパス

主催：一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)  
上智大学国際言語情報研究所(SOLIFIC)

特別協力：一般財団法人日本私学教育研究所、公益財団法人国際文化フォーラム

後援：文部科学省、外務省、東京都教育委員会

#### 事業目的：

本シンポジウムは、多様な外国語教育の関係者のネットワークを広げ、多言語・複言語教育を推進することをめざしています。多言語・複言語教育は、多様な言語能力を身に付けるだけでなく、21世紀の多言語・多文化共生社会を切り拓いていく人材を育成すると共に、学習者の内側からの成長を促すことを目標としています。

第6回目を迎えた本シンポジウムでは、「豊かな人間性を育む多言語・複言語教育」をテーマとして掲げ、そうした観点に立って多言語・複言語教育を多角的に検証し、その意義を参加者と共有することで更なる推進を図ることをめざしました。130名の参加者を得て、基調講演、パネルディスカッション、分科会（公募・口頭発表）の各プログラムは、以下のとおり、予定通り成功裡に開催されたことをご報告します。

#### 事業内容：

##### 1. 午前の部【基調講演】

田中克彦氏（一橋大学名誉教授）による「多言語とのつきあい方—ことばの不規則性と類型」と題した基調講演が行われました。幼少時、戦中そして戦後のアメリカ占領軍の言語政策を通して、ご自身が「ことば」に興味を持たれた逸話から始まり、聖書の創世記から論語まで話題が多岐に亘る内容豊かな講演でした。後半には言語要素のまとまりに着目され、その不規則性と類型について、数詞の体系なども交えながら、大変興味深い観点から論を展開されました。



##### 2. 午後の部【パネルディスカッション：日本の中等教育における多言語教育】

「日本の中等教育における多言語教育」と題したパネルディスカッションで、文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室長の金城太一氏による「外国語教育政策の最近

の動向」の発表、慶應義塾大学/名古屋外国語大学/大阪大学による「平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業における取組状況」の発表が行われました。

金城室長からは、2020 年の教育改革を目指したグローバル化に対応した外国語教育推進事業として、平成 30 年度も同程度に予算編成がなされ、外国語教育推進事業が継続される旨、報告がありました。中央教育審議会答申（2016 年 12 月 21 日）で提言された「英語以外の外国語教育の必要性」を踏まえて 2017 年度より実施された英語以外の「外国語教育強化地域拠点事業」についても、引き続き「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」として、拠点機関を指定して新学習指導要領に基づいた研究開発を支援することが確認されました。

こうした施策は、JACTFL が設立当初より掲げている課題の一つである、「中等教育、特に高等学校における多様な外国語教育の普及を制度的に推進する」取組にもつながるものであり、同室長からも今後とも教育現場の関係者の協力を得たいとのお話がありました。

引き続き、「平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業」で委託された上記の 3 つの指定実施機関より、1 年間のより詳しい取組報告が共有され、互いの教育実践や研究成果を踏まえて研鑽し合える有意義な場が提供されました。

### 3. 午後の部【分科会：外国語教育の多様化の実現に向けて】

分科会 1「外国語教育強化地域拠点事業の実践報告」では 3 件、分科会 2 小学校・中学校の部「豊かな人間性を育む実践報告」では 3 件、分科会 3 高等学校・大学の部「豊かな人間性を育む実践報告」では 3 件の口頭発表が行われました。

分科会 1 では、パネルディスカッションの議論に引き続き、3 つの実施機関よりそれぞれの研究内容と成果についてより具体的内容が報告され、参加者との意見交換が行われました。

分科会 2 では、1) スペインの姉妹校と「お互いにとっての外国語」を使用しての国際交流の実践を通して、教師側に求められるスキルを考察した報告、2) 異文化理解をめざした中国の外国語学校での日本語教育と帰国後の国際教育での実践報告、3) 教員と外国人保護者間のコミュニケーションに役立てるための外国人児童生徒支援に向けたガイドブックの作成と教員の気づきについての報告があり、活発な質疑応答が行われました。

分科会 3 では、1) 自律的な外国語学習に取り組むクラスにおける教員の役割、学習者の学びについての実践報告、2) 高校スペイン語既修者の異文化に対する意識調査の結果から英語以外の外国語を学ぶ意義の考察、3) 独自に開発したロシア語教科書の紹介と教科書がめざしている楽しさの追求と創造性の育成についての成果報告が行われました。

2020 年の教育改革を前に、豊かな人間性を育む多言語・複言語教育を今後もより大きく、より強くするべく、今まで育ってきた芽を大事に育み、将来的には大空に羽ばたく素晴らしいものに育てていきたいと考えています。その意味で本シンポジウムは、多様な言語の枠を超えて横断的なつながりを強化するものとして、大変有意義な場を提供できたのではないかと総括します。また、参加者へのアンケート結果でも概ね好評を得ることができたことをあわせてご報告します。

以上